

I - A - 32

漢方エキス剤の合方で著効。人工透析をまぬか れている腎不全

鉄砲洲診療所

木下繁太郎

対象 昭和11年生男子，初診昭和60年3月健康診断がきっかけで腎不全を発見，1ヶ月入院精査，1年後には透析は不可避と云われ，漢方治療の併用で腎透析を回避したいと云う希望で来診した。

経過及び成績 入院時，尿蛋白(+)，潜血(±)，BUN32，Cl 2.4，コレステロール246，TG 232とのことであったが，初診時は尿蛋白(++)，糖(-)，ウロビリノーゲン(+)，pH5.5，潜血(++)，尿蛋白定量99mg/dl，沈渣で赤血球が一視野に5～10個(以下略)で，食事は東京医科歯科大の主治医の指示により1日2000kcal，蛋白質40g，食塩5gの厳重な食事療法を守っている。

初診医により八味地黄丸5g分2(ツムラ)が投与されたが，1ヶ月後の60年4月に診察，著明な臍下不仁，軽い胸脇苦満と臍上悸があり，柴胡桂枝湯7.5g，牛車腎気丸7.5g(ツムラ)，紅参4.5gを併用，以後投与を続けた。1年後の昭和62年2月に左下腹部に癭瘤を認め，前記処方に桂枝茯苓丸5g分2を追加した。

この間しばしば風邪症状があったが，葛根湯，葛根湯加桔梗石膏の早期で解決，又時々口内炎もおこしたが黄連末の外用で治癒している。当所初診より2年半目には医科歯科大の主治医より腎機能が改善していること，又蛋白質摂取量を増加して良いことを指示されている。

考察・結論 患者は漢方薬使用後3年以上を経過したが，経過順調で，而もこの間建物内装のハードな仕事をこなしている。而も治療に満足し，自信を深めている。漢方エキス剤の3剤以上の強力合方で効果をあげており，重症疾患，難治疾患には多剤投与が必要であると感じている。